

しらかみ通信



特定非営利活動法人 白神山地を守る会 & 白神自然学校一ツ森校 共同配信

事務局 〒030-0947 青森市浜館字科字 86-1 TEL/FAX 017-743-8314
URL <http://preserve.shirakami.gr.jp/>
e-mail preserve@shirakami.gr.jp

2009年8月 第31号



スタッフの指導を受けて植樹する参加者

第8回植樹祭「白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川」が終了

7月4日（土）、植樹祭が無事終了しました。今回は、ブナの苗木が少ないこともあり、規模を縮小しての植樹祭でしたが、参加者はおよそ100名で募集人数を満たしました。当日の朝は雨が降っていて、天気が危ぶまれましたが、植樹をする頃には天気は回復しました。

開会式では、実行委員長である長谷川兼己鯨ヶ沢町長の挨拶はじめ、関係者の方々にご挨拶いただきました。今回は、白神山地の環境保全活動に会社全体で取り組んでいるモリタさん、弘果さんにもご挨拶いただきました。



植樹方法を実演しながら説明する



熱心に説明を聞く地元の高校生



植樹祭に使うブナの苗木を掘り起こす

植樹終了後、おにぎりとお神酒が振舞われました。また、白神山美水館さんから「白神山地の水」の提供、弘果さんから「森のバナナくん」も配られました。さらに、地元スタッフによる手作り笹餅や漬物の販売もありました。その後、「津軽森」散策をしました。ブナ林の中を歩き、到着点（見晴らし台）からは、向白神岳・天狗岳等の白神山地の主峰を眺めることができます。

ブナの寿命は平均250年。ブナは、樹齢50年前後になってはじめて結実すると言われています。植樹したブナの苗木がすべて生長していけるとは限りませんが、一本でも多く、大きく育ててほしいと思います。「津軽森」で目にした、広大なブナの森になるように・・・。

森のバナナくん フォーラム ～ 森と遊ぶ、森に学ぶ、森と育つ ～のご案内

下記の日程で、フォーラムを開催いたします。白神山地が教えてくれた緑の森の大切さ、素晴らしさ、そして森とのつきあい方について、パネリストの皆さんと一緒に楽しく学びます。

会員の皆さまには、是非ご参加をお願いします。

日時：平成21年9月5日（土） 14:00～16:30

場所：弘果 弘前中央青果株式会社 大会議室（青森県弘前市末広一丁目2番地1）

定員：100名（参加無料・申込不要）





- 募集人数 10名以内
- 参加費用 15,000円（宿泊費・交通費・食事代・保険代・入浴代等含む）
- ツアー内容 / キノコ狩り・魚釣りを楽しみ、自炊しながら「マタギ文化」を体験
 - 10/11 9:00 青森駅付近/八甲田丸広場前出発【8:50までに集合】
 - ⇒ 10:45 白神自然学校から野外用テント他荷物を積んで出発
 - ⇒ 11:30 青沼入口到着・登山開始
 - ⇒ 12:30 景色のいいところで昼食【各自持参】 ⇒ 13:00 登山再開
 - ⇒ 14:00 青沼（マタギ小屋）到着・野営及び夕食準備 ⇒ 16:30 夕食
 - 10/12 6:00 起床・朝食の準備・朝食【※昼食も準備】
 - ⇒ 7:30 キノコ狩り ⇒ 10:00 下山 ⇒ 14:00 自然学校到着
 - ⇒ 温泉（入浴30分） ⇒ 青森駅到着
- 申込み・お問い合わせは、「白神山地を守る会」事務局へお願いします。

【特集】「秋の七草」について

- ひっそりと秋の到来を知らせてくれる植物 -

■「秋の七草」の由来

「秋の七草」は、奈良前期の歌人、山上憶良（やまのうえのおくら）が万葉集にて詠んだ次の歌が由来となっています。

「秋の野に 咲きたる花を指折り かき数ふれば 七種の花」

はぎのはな おばなくすはな なでしこのはな おみなえし ふじばかま あさがおのはな
「萩の花 尾花葛花 瞿麦の花 をみなへし また藤袴 朝貌が花」

尾花



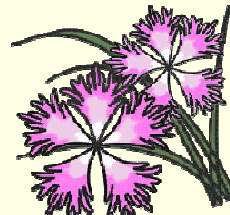
ススキの穂

葛花



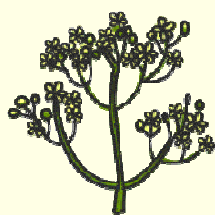
クズ

瞿麦（なでしこ）の花



ナデシコ（撫子）

女郎花（おみなえし）



オミナエシ

藤袴



フジバカマ

朝貌（あさがお）



キキョウ

秋の七草は、秋の風流の鑑賞用に思われます。しかし実際は、万葉の当時は、生活に即した実用的な植物の花々（食用・屋根葺きの材料・薬用・香料）だったといえます。

いずれにしても、「秋の七草」は、8月のお盆を過ぎた頃、まだ残暑の厳しい頃に花を咲かせ始め、残暑もあともずかであることを知らせてくれる気がします。「秋の七草」を見つけていち早く秋を感じてみませんか。

白神山地の花たち

クサギ【臭木】

クマツツラ科 クサギ属

落葉広葉低木～小高木 花期：8月～9月（白・紅桃）

山野の日当たりのよい場所に自生する。枝葉にカメムシのような悪臭があるため、「臭木」と呼ばれる。葉は、ハート形に近い三角形をしている。花は筒形で先端が大きく裂けて平らに開き、雄しべ4本と雌しべが突き出ている。果実は藍色の球形で、染料に用いられ、ワラの灰汁で煮出した液で布を染めると、浅黄色になる。

